

## 日本語教育実習に参加しました(インドネシア「国立ハサヌディン(Hasanuddin)大学」)

9月9日(日)から20日(木)まで、インドネシアの国立ハサヌディン大学での教育実習に参加しました。6月5日のテレビ会議で出会った先生方と、JICAの廣田知子先生にあたたかく受け入れていただき、充実した日々を過ごすことができました。

9月10日にスラウェシ島に到着、11日から14日までは授業を見学させていただきました。授業は「文法」「聴解」「会話」「漢字」等があり、私は毎日2コマ、1、2年生の授業を見させていただきました。まず驚いたのは、入学間もない1年生であっても、すでに、ひらがな・カタカナがスムーズに読み書きできる生徒の多かったことです。高校で第2言語として日本語を学んできた生徒が複数いると知り合点がいきましたが、彼らの日本語を勉強したいという意欲の強さをそこに感じた気がしました。それは授業態度にも表れており、100分という長時間ですが、彼らのほとんどが目を輝かせながら、集中をとぎれさせることなく授業に臨んでいました。2年生では若干かげりはあるものの、それでも『日本語を習得したい』という意欲に満ちている生徒が大半で、圧倒される思いでした。

2週目の9月17日から20日までの期間、1年生の授業を3コマ(「文法」2コマ、「聴解」1コマ)受け持たせていただきました。日本語教育についてまだ勉強不十分であり、授業実践の面でも未熟な私の授業でしたが、優しいまなざしでしっかり聴いてくれた生徒たちのこと、つたない授業を見て励ましと優しいアドバイスをくださったハサヌディン大学の先生方のことを、私は一生忘れないと思います。

インドネシアは、生活スタイルも文化も異なり、カルチャーショックの連続でした。その中で、日本という国について客観的に捉え直せた気がします。また、自身の教師としての不十分さを自覚する良い機会となりました。そして、日本語教育の意義や役割について再認識でき、指導者として向上したいという気持ちも強まりました。

『日本が好き。日本語を学びたい。』という思いを持った生徒が世界中にたくさんいる……。そんな思いに答えられるよう、鳴門教育大学院で日本語教育をしっかり学んでいきます。

文責 三浦真美 (大学院 教科・領域教育専攻 言語系コース (国語) M1)



学生に真剣に向かい合う



楽しかった実習、ありがとう



そして、学生と涙の別れ

## インドネシアの国立ハサヌディン大学で日本語教育実習を行いました！

私は9月17日（月）から9月19日（水）までの3日間で、ハサヌディン大学文学部日本語学科2年生を対象に、「文法」と「聴解」の授業を合計3回担当しました。

今まで、テキストを使って大人数に日本語を教えた経験が無かったので、日本ではないインドネシアという国で日本語学・日本文学を専攻する学生に教えることができたことは、とてもいい経験になりました。実習を通じて、教室内のコントロールや語彙のコントロール、学習者の母語を使わないオール・ジャパニーズの授業の中で学習者に日本語文法をいかにしてわかりやすく伝えるかということが今後の大きな課題として残りました。そして何よりも、日本語母語話者として、日本語学習者に日本語を教えることの難しさを再認識しました。

来年、もう一度ハサヌディン大学に行き、日本語の授業実践を行いたいです。そして少しでも成長した姿を今回お世話になったハサヌディン大学の先生方、学生たちに見せたいと思います。

最後に、この実習を様々な形でご支援、ご指導いただきました先生方、そしてハサヌディン大学文学部日本語学科の学生たちに、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

文責：西條 結人（大学院 教科・領域教育専攻 言語系コース 日本語教育分野 M1）



聴解クラス



文法クラス集合写真



文法クラス



勉強会@職員室



帰国前の最後の食事会



イダ先生とイメルダ先生